友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽町７の10
電話 大塚（941）2801
編集兼発行人　宮田　靖
定価　1部　10円

第十一回全国大会開く

代表二一六名が出席

事務局長に宮田君を選出

本会の第十一回全国大会は、去る五月二日、三日、四日、五日の四日間にわたり磐梯友愛山荘に二百十六名の代表を集めて盛大に開催された。大会は三つの分科会、五部門にわたる綜合討議、四ブロック別会議、一特別委員会によって構成され、それぞれに活発な討論が展開された。また開会式には、ゴールデンウイークで大混雑をする列車にも拘らず、遠路はるばる石井桂参議院議員（代理）と酒井勝郎相談役（島根大学教授）も出席され全国から集った代表者に深い感銘を与えた。また、今回の大会で昨年度までの北川登事務局長が退任をし、新たに宮田靖常任幹事が事務局長に選任をされ、さらに飯塚祥太郎、添野元晴の両君が常任幹事に加わるなど若手の躍進が見られた。

大会は五月二日午後五時より開かれた資格審査委員会（委員長＝張西五六君）大会運営委員会（委員長＝鈴木道夫君）によって、実質的にその幕をあけた。この両委員会によって申請のあった各代表者を認定、あるいは大会日程の細部にわたる諸問題をはじめ、今大会の運営方針が決定されたのである。

翌三日午前十時半より、全代表者が集まって開会式をおこない、尾形常任幹事の司会で、開会の辞君ガ代斉唱と式が進められ、会綱領を室蘭支部長の若松誠樹君が朗読、奥田大会準備委員長の挨拶、続いて石井桂参議院議員（代理）山本猪苗代町長、酒井島根大教授（本会相談役）等からの祝辞、メッセージ・祝電の披露（別掲）がおこなわれた。その後、本紙既報通り優秀支部連合会、優秀支部がそれぞれ表彰され、さらに地方代表挨拶が福島県連の小池勝意君、北海道連の羽賀昭五君、山口県連の竹重睦夫君等からあって、最後に友愛の歌を合唱して開会式を終えた。

昼食の後本会議が開会され、始めに仮議長に真武信幸君（福岡県連）を選出して議事に入った。資格審査委員長報告、それに基づき大会成立宣言、大会運営委員長報告に続いて議長団を選出、議長に梶本岐阜県連会長、角田神奈川県連幹事が席に着き、大会書記長に吉田照子さんを指名した。続いて北川事務局長の一般会務および会計報告の後、十議題をそれぞれ三分科委員会に付託して本会議を終えた。

【写真㊤北川前事務局長の感謝状授与㊦開会式で奥田幹事長の挨拶】

新役員一覧

名誉会長　クーデン・ホーフ・カレルギー
顧問　石橋正二郎　船田文子
木村毅　鹿島守之助　細川隆元
我妻栄　阿部眞之助　島善鄰
萩原吉太郎
相談役　尾崎新次郎　大山良雄
柳沢澄　西木まさ子　酒井勝郎
田中重弥　近藤春雄　加藤精一
押川如水
常任参与　五十嵐省吾　深津栄一
飯島清
参与　満生雄美子　小島孝男
渡辺昇
会長　鳩山薫
副会長　川崎秀二　宮川三郎
幹事長　奥田吉郎
常任幹事　川手正一郎　大西巌治
北川登　奥田吉郎　尾形智矩
宮田靖　清水幸重　高杉信美
高野政利　田辺克育　鶴巻克雄
中川治男　早川忠光　早川広中
柳沢定勝　高橋最宜　矢野秀敏
山崎勝己　吉川昭市　添野元晴
佐々木恵美子　飯塚祥太郎
幹事　吉田満士嗣　高橋信彰
森岱司　樋江井光臣　三浦吉治
山川昇　井上都司子　吉田引一
吾妻充　大久保照夫　押切清夫
妹尾要　林勝　佐伯詔一
蓬田健一　田中祥子　鈴木道夫
荻野忠年　大島和章　鳥井敏光
横尾岩男　東田教範　布施明治
土井昭道　三谷喜好　十川昭吾
古館仁義　木村武幸　岩崎眞澄
秋田昌晴　丹生昌昭　玉川伸也
三枝啓己　津田弘視　宮崎久男
瀬尾英幸　君塚善之　山田省吾
高山和枝　村田正懲　張西五六
竹重睦夫　梶本英夫　磯部安伸
坂恭幸
事務局長　宮田靖
監査　森岱司　大久保照夫
統制委員　中川治男　大西巌治
山川昇　高野政利　田中祥子
坂恭幸　玉川伸也　角田恭子
中正信　吉田照子
選考委員長　大久保照夫
全国組織委員　尾形智矩　林勝
三浦吉治　吾妻充　君塚善之
大久保照夫　梶本英夫　吉富史
鳥井敏光　布施明治　張西五六
佐々木恵美子　飯塚祥太郎
添野元晴

大会宣言

ここに第十一国全国大会を迎えるにあたって、われわれは新しい決意を表明するものである。昨年は創立以来十周年を迎え、輝やかしい栄光の年であった。過去十ヵ年の歴史は中央・地方を結び、国内・国外をつなぎゆるぎない組織を確立し、目覚しい運動展開の連続であった。われわれはこの尊い経験の上にたって、新しい出発をはかるものである。

その課題は友愛思想の現代的展開である、個人個人の心の中に、職場や家庭の中で、町から村から広く社会にわたって更には国際的に現実的問題をとらえながら、相互尊重・相互理解・相互扶助の精神を普及し実践しなければならない。

国際情勢も米・ソの二大勢力から中・ソ論争、仏の国際的な進出で多様化、複雑化してきた。粉争はラオス・ヴエトナム・マレイシャ・インドネシヤと足下の東南アジアで厳しく起っている。国内的にも日・韓問題、ILO八十七号条約批准をめぐる駈けひき等内外ともに友愛精神の必要性はその比重を増している。

特に本年はオリンピックの年にあたり、本会が提唱してきた世界青少年キャンプが実現の年である。若人の祭典であるオリンピックに開設されるキャンプが、国際親善とわが国の紹介に大きな役割を果すよう全力を尽すべきである。その他、日本青年奉仕隊・オーストリア青年会議との交換、マレイシャの女子留学生受け入れ等、従来の友愛運動の他に重要な問題をかかえている。

われわれは以上のような情勢の下で自らの手で建設した磐梯友愛山荘において昭和三十九年度運動方針をはじめとする諸議案を審議決定した。

この大会に盛りあがった全国の同志諸君の意志と情熱をもとに、新しい出発にあたって友愛運動への意欲を一段と強化し、友愛社会の実現と組織の完成に前進することを誓う。

一九六四年五月四日

第十一回友愛青年同志会全国大会

祝電

藤本孝雄氏（衆議院議員）鹿島守之助氏（鹿島建設ＫＫ会長・本会顧問）安井謙氏（参議院議員）植木光教氏（参議院議員）浦部武夫氏（都議会議員）小林七之助氏（福島県議会議員）古賀一郎氏（文京区議会議員）斎藤正氏（文部省社会教育局長）西田剛氏（総理府中央青少年問題協議会事務局長）福島県教育長、猪苗代町教育長、中央青少年団体連絡協議会、日本青年団体国際委員会、松下正寿氏（核兵器禁止平和建設国民会議々長・立教大学総長）世界連邦日本青年協議会、日本ユースホステル協会、青年アジア協会、小杉英司氏（日本働学青年協議会会長）日本レクリエーション協会、全国4H連絡協議会、生長の家青年会、今村文夫氏（日本経済青年協議会事務局長）小野秀一氏、石藤周一氏（日本青年館）有馬悌三氏（文京タイムス社社長）白河忠一氏、矢野秀敏氏（友愛福岡県連会長）鎌田修次氏、早川忠光氏（軽井沢友愛山荘ペアレント）井上信雄氏（友愛大阪府連事務局長）古館仁義氏（友愛長崎県連会長）友愛長崎支部、尾崎新次郎氏、服部斉氏（友愛御代田支部長）柳沢澄氏（友愛相談役）田中重弥氏（友愛相談役）東京文化女子学園友愛クラブ、友愛婦人友の会、千宗興氏（世界連邦日本青年協議会副会長）青少年赤十字、日本健青会、伸びる若い芝の会。

直言

◆第十一回全国大会は、本紙掲載の通り、大きな成果を挙げて無事終了した。全国八万四千の会員諸兄姉と共に心から喜こびあいたいものである。

◆今回の全国大会は、ある意味では大きな転換期を迎えた本会の姿を如実に示し、さらに社会通念では本会のような任意団体にあってはもっとも危険といわれる時期を無事乗り切ったともいえるのではなかろうか。

◆御承知の通り北川事務局長が退任をし、後任に宮田新事務局長を迎え、さらに若い常任幹事として飯塚祥太郎君、添野元晴君の二名が加わったのである。正に本会にとっては新旧交代の時期を迎えた姿といい得よう。まして今回の大会で日本友愛クラブの設立が決定をされており、これは本会のO・B会としての性格をはっきりし、新旧交代の時期を迎えた本会の新たな問題を提起したものである。

◆十年一昔とは実に巧みな表現であることを今更ながらのように痛感する。本会も創立十年を経過して交代の時期を迎えたわけである。もっとも創立当初から参画している人々を一昔前の人達という意味ではない。永い人生航路からみればこれからが働き盛りである。そうして、それからが、ある意味では本当に友愛運動に全力を注げるともいえるのではなかろうか。

◆北川前事務局長も、退任の辞で、〝私の胸から友愛のバッヂが取り去られる時は、私の人生の終わる時である〟と述べ、大会に参加した代表者から強い共鳴を受けていたことを忘れてはならない。今更いうまでもなく友愛運動というのは青年だけのものではなく、子供から老人まで、ほんとうに老若男女を問わず参画し、あるいは参画されなければならない。

◆全国の同志会員と共に、現在ある自分の条件にあって、もしそれが恵まれたものであるならばそれを最大限に利して、また、もしそれが悪条件であるならばあらゆる努力を傾注してそれを克服し一段と進んだ友愛運動へ邁進することを誓い合いたい。

運動方針は前向きに

☆

「自由と人生」の再刊を要望

第1分科委員会

第一分科委員会は、三日午後一時より、四時まで、四日午前八時より九時三十分まで、ヴィラ大ホールにおいて開催された。

付託議題は、第一号議題「昭和三十九年度運動方針について」尾形智矩常幹担当、第七号議題「オーストリア青年運動会議との議定書の交換について」鶴巻克雄常幹担当、第八号議案「マレイシヤ女子留学生の受け入れについて」鶴巻克雄常幹担当、第十号議案「大会宣言について」柳沢定勝常幹担当、の四議題であった。

委員長には飯塚祥太郎君（東京部連）が選ばれ出席者は六十三名を数えた。第一号議題については、中共承認については台湾を考慮しながら前向の姿勢をとること、オリンピックにたいして地方の参加要望、日韓問題については静観、青少年対策の推進、重要問題については地方の意見をきく、歯科診療班の派遣、全国的な統一行事の展開、自由と人生の再刊と強い要望があって一部字句の修正をして原案を可決した。

第十号議題を先議し、一部字句の修正をして原案を可決した。

第七号議題については、本会の姉妹団体の発足について深い関心を示したが、種々の国語についての解釈は、日独語が両国語ではあるが、英・仏語による手紙の交換も考えられるとの解答があり、更にオーストリアに議定書を送付する場合は、日本文に必ずしもとらわれず相手方に意志が通ずるよう翻訳することを希望し、原案通り可決した。

第八号議題については、マレイシヤの学校制度を考慮の上、資格を高校卒程度とする。国内旅行については支部ができる限り協力をしユースホステルを利用する等の意見があって原案を可決した。

以上の審議の経過とその結果について本会議に飯塚委員長より報告することになり第一分科委員会を終了した。

入会金百円に値上げ

○

一層活発な国際交流計画

第2分科委員会

第二分科委員会は、五月三日午後一時半よりヴィライナワシロ大広間に九十四人の代表者が出席して開かれた。北川常任幹事の司会で開会され、はじめに全員が自己紹介をした後、委員長の選出に移り、万場一致で林勝君（道連事務局長）を決定した。

第二分科委員会に付託された議題は、第二号議題「昭和三十九年度事業計画について」第三号議題「昭和三十九年度予算について」第九号議題「世界青少年キャンプの参加協力について」の三議題で奥田吉郎、北川登、田辺克育、山崎勝己、宮田靖の五常任幹事が担当役員として出席をした。

審議は第九号、第三号、第二号議題の順で進められ、はじめに奥田常幹から第九号議題についての提案理由が説明された。これについては、本会が過去四年間努力を傾けてきた最後の仕上げとなるものであるところから討論が活発におこなわれたが、結論としては本部原案通り可決し、本会の全組織をあげて世界青少年キャンプの成功に努力をすることが再確認された。第四号議題の今年度予算について宮田常幹から提案理由の説明をおこなったが、昨年までと比較し大きく変ることは❶入会金を従来の五十円から百円に値上げしたこと、❷特別会計部門を廃しすべてが通常会計一本にしぼられたことが発表された。これに対し全員一致の賛成をみたが、決算報告では会費の末納が依然としてあるがこれを皆無にするため各代表が帰郷してから充分に働らきかけることの確認があった。これで第一日目の日程を終え、翌四日午前八時より同場所において審議が再開された。

第二号議題の事業計画については宮田常幹から提案理由の説明がおこなわれた。事業計画の新規のものとしてはオーストリア青年運動会議との交歓計画、マレイシヤからの女子留学生受け入れ等のものがあり、質疑の面ではひじょうに活発なものがあったが、これも本部原案通り可決した。

情宣活動 農村対策 不備を指摘

各委員会の強化約束される

第3分科委員会

第三分科委員会は五月三日午後二時より友愛山荘ホールにおいて開会された。この分科委員会に付託された議題案は第四号議題、昭和三十九年度組織活動方針について、第五号議題、昭和三十九年度役員選出について、第六号議題、日本友愛クラブの設立について、の三議題案である。

担当は川手正一郎、早川広中、大西厳治、佐々木恵美子、中川治男清水幸重の各常任幹事が当った。

委員長には北海道室蘭支部、若松誠樹君が選ばれ五十四名の代表が出席した。

まず第六号議題、日本友愛クラブの設立について川手常任幹事が提案理由の説明をおこない質疑ののち審議に入る。この議題では特に日本友愛クラブと友愛青年同志会との関係について活発な意見が出されたが、あくまで同志会の発展に寄与することが目的であることが確認され本部原案通り可決。

つづいて第五号議、昭和三十九年度役員選出について中川常任幹事が主旨を説明し一括審議の結果本部原案通り可決され、午後四時第一日目の日程を終え閉会した。

二日目は午前八時より昨日と同じく山荘ホールで再開され第四号議題、昭和三十九年度組織活動方針について早川常任幹事が提案理由を説明し質疑ののち審議にはいる。諸外国に対しても組織的な働きかけをおこなう必要がある。本会の過去の情報宣伝活動は不十分であり組織拡大に支障をきたしているので本年は特にこの点を改善すべきである。また農村問題に対する取り組みが不十分である。この問題に対しても十分な対策を立てるべきである等の活発な意見が出された。これに対し本部は広報委員会、農村対策委員会を充実強化しこれらの諸問題を解決するために本年は積極的な活動をおこなうことを約束した。第四号議題は一部字句を修正し本部提案を可決

午前十時半第三分科委員会は付託された三議題案の審議を終り閉会した。

第11回友愛青年同志会
①

②

11回友愛青年同志会全国
③

④

写真❶は祝辞を述べる石井桂参議院議員（代理）❷は山本猪苗代町長、❸は酒井勝郎島根大学教授、❹は地方代表挨拶の北海道美瑛支部長羽賀昭五君。

第11回友愛青年
組織の拡大
友愛思想の普及

組織の拡大
友愛思想の普及

写真左は、優秀支部連合会賞を奥田幹事長より受ける梶本英夫岐阜県連会長。下は、優秀支部賞を受ける山口剛史大阪市支部常任幹事。

楽しいお買物は
池袋駅の丸物へ
池袋駅
丸物
電・(982) 2111

しあわせの夢を育てる
みんなの東武
東武
池袋駅西口
TEL 981・2211

北炭

贈って
喜ばれる
阪急の商品券
一〇,〇〇〇円まで各種・大阪・神戸・東京大井・数寄屋橋各店共通

楽しいお買物は
松坂屋
上野
銀座
UENO
GINZA

老兵は消え去らず

事務局長の退任に当って

常任幹事　**北川　登**

今次の第十一回全国大会において事務局長を辞職することが最終的に決定をみ、新らたに新事務局長が選任された。地方の顔なじみの多くの会員諸兄姉にとって、あるいは意外の感がされたむきがあったかもしれない。私が事務局長に選任されたのは第八回大会であるから在職は満三ヵ年にすぎない。かえりみて何等の功績もなく、さしたる成長も遂げ得なかった。全国各地の会員諸兄の支援と本部常任幹事諸兄の献躍的な温かい御協力があったればこそ、三年の月日があった。

全国大会の閉会式の席上、その私に感謝状が授与された。理屈をぬきにして感謝の言葉もない。感謝状を受けながら矢張り心の奥深くからこみあげてくる「何か」で思わず瞼の裏を熱くした。そしてその一枚の賞状に入会以来十一年という歳月の重みを感じた。

◇　◇　◇

今次大会の会場は、われわれが友愛運動の一環として営々と建設した建物である。この一磐梯友愛山ーは、建設準備の段階から手がけ、責任の一端を荷ってきたものとして私にとっては生涯忘れえぬもののひとつである。その山荘で「今日」という日を迎えようとは何か因縁めいた感じすらするのである。老兵は消えても山荘は残るのである。

磐梯友愛山荘の建つ福島県は友愛の同僚の足跡が、古くから残されている。友愛移動文化映画班が始めて創設された昭和三十年、川手団長以下一行は、ここに多くの語り草を残している。八年前の七、八月には各自八貫匁の荷物を背負い、県下の僻地を何日も何日も歩き廻っている。この時、歯科無料診療班も同行した。柳沢、鶴巻両常幹が会津地勢の物識りになり、奥田幹事長と並んで健脚を誇るようになったのもこの土地に関係が深い。

◇　◇　◇

かえりみれば十一年の歴史は青春の歴史といえる。本会創立の当初、殆どの常幹が学生か卒業したばかりであった。私も大学院の一年だった。会は年毎に成長し、組織は全国を網羅し、三つの友愛山荘をもつ財団法人日本友愛青年協会も別に設立されている。そしてかっての学生は老兵となった。

しかしー。老兵は消えゆくのみであろうか。友愛運動はたゆみなく前進を続けてゆくであろう。十一年耕された土壌に蒔かれた友愛の種子は、若葉に育ちつつあるといいえようか。そしてこの次の十年こそ実を実らせ、花咲かせる十年であろう。

友愛の彼岸は近く遠い。老兵は消えてはならないし、消えもしない。何故なら友愛は心の信条であり、生活の糧であり、生涯の信念であり、心のよりどころであるからである。仕事の実務や運動の指導は、新鮮な感覚と若いファイトと実践力で逞しく受け継がれてゆかなければならない。

——友愛革命の中核は青年である——。二十一世紀の夜明けはもうそこまで来ている。二十一世紀を生きぬく青年が友愛革命の旗手となるであろう。老兵は年々増えてゆく。しかし、その老兵から友愛の信念を奪い去ることは、板をもって大海をさえぎるより猶困難なことであろう。友愛のバッチがこの胸から消えることは生涯ないであろう

（筆者は前事務局長）

珍芸続出の文化祭

輝く優勝は美瑛支部に

友愛文化祭は四日午後七時より友愛山荘のベランダを舞台にして華やかに展り拡げられた。

速成の舞台とはいいながら、大友愛旗をバックにして幕もひかれ一流劇場そこのけの舞台（？）が用意された。そのためか、出演者も大いに張り切り、名演技、珍芸が続出し、またたくまの一時間半であった。

舞台の初めは早川広中常任幹事の名司会で、一斗缶を囃子に徳島県連、四国学生部一同による阿波踊りの熱演であった。踊るアホウに見るアホウ、同じアホウなら踊らにゃ損々とばかりに舞台狭しと踊りまくり、友愛文化祭の第一陣を飾るにふさわしい幕あきであった。これに続いて各支部からの有志が続々と登場したが、中でも北海道の美瑛支部はそろいのユカタで勢揃いして美瑛音頭を披露し、最後には国立青年の家を美瑛に誘致する宣伝を忘れないなど実に見事なものであった。また飛び入りの奥田幹事長、川手、鶴巻両常任幹事、能登寺さん（島根大支部）のコーラスはダーク・ダックス顔負けの玄人はだしで参加者を感心させた。

審査結果は、一位の会長賞を美瑛支部が確保し、友愛文化祭の優勝は昨年の室蘭支部に続いて今年も北海道に持ち帰られた。また、本部から飛び入りした奥田幹事長グループは文部大臣賞（？）に輝き面目を保った。

なお審査員は次の通り。

委員長　中川治男氏（文化部長）
委　員　山田昭弥氏（ビラ社長）
同　　　清水文夫氏（福島県連会長）
同　　　大和千代子氏（栃木県）
同　　　鈴木通夫氏（東京都）
同　　　北川　登氏（常任幹事）
同　　　佐々木恵美子氏（常任幹事）

また、このあと吾妻山荘管理主事の指導でキャンプファイヤーを楽しみに午後九時半友愛文化祭を終了した。

【写真上は第一部の美瑛支部会員による美瑛音頭、下は残念賞の東京都支部連合会の合唱】

各面にわたり討論

内容の充実した綜合討議

五部門に分かれた綜合討議は、四日午後十二時半からそれぞれの会場に分散しておこなわれた。

友愛山荘ホールでは〝事務運営および機関紙〟が討議され、ややもすると発行の遅れがちな本部機関紙について、ぜひ定期的に発行するよう要望があった。また本部に寄せられる支部の活動報告、支部から会員に送られる連絡事項についての連絡方法が真剣に討議された。

磐梯ヒュッテのホールでは〝国際交流活動について〟がおこなわれ、本会の国際交流活動のあり方が検討された。できるだけ安い費用で、しかも内容のある派遣方法を今後も充分に研究する余地がある。また、従来のように、単なる親善使節の派遣という方法にも限度がある等の厳しい議論がたたかわされた。

〝支部活動のあり方〟はヴィラの大広間でおこなわれた。各支部から活動報告をおこない、それに従って討論が展開されたが、結論としては、各地の条件を考慮しながらそれぞれの立場から活動をすることが大切であるとの確認があり、さらに研修講習会に積極的に参加すること、県連行事に参加すること、マス・コミ対策を考えること等の意見が大勢を占めた。

〝組織活動の進め方〟はヴィラホールで開かれ、まず各支部から活動報告の発表があった後討議に移り、問題が会の基本的なことであるだけに各人から活発な意見が発表された。要は本部の組織活動方針に従って常に積極的な態度で臨むべきであるとの結論であった。

ヴィラの和室（小）では〝友愛思想について〟の討論があった。友愛思想そのものに対する各参加者からの意見を求め、さらに本部役員から、現在本部で意志統一をしている友愛思想を解明した。内容的には社会構造の点にまでふれ、相当深く説明が加えられ、友愛思想の普及にあたる上に大きな参考となった。

お砂糖
ハト印の
大阪製糖

関東学生部　新役員を決定

関東学生部では去る四月二十三日午後一時より会長邸はなれにおいて昭和三十九年度第一回目の総会を開催し、事業計画、予算案等を審議した。

その結果次のように新役員を選出した。

委員長　添野　元晴
副委員長　秋田　昌晴
事務局長　丹生　匡昭
事務次長　広沢　秀彦　勝　正
　吉田　照子
会　計　早川　淳子
会計監査　伊藤　純一
文化部長　入江　和朗
国際部長　柳沢　紘
組織部長　斎藤　昭男
常任委員　宮崎　久男　柳沢　紘
　児島美奈子　北原　繁
　入江　和朗　下岡郁子
　斎藤　昭男

【事務局長退任挨拶の北川常幹】

新入会員の多い大阪市支部例会

【大阪発】大阪市支部（支部長＝磯部安伸君）では去る四月二十日午後七時より事務局において第21回友愛のつどいを開催した。内容は第二回友愛東南ア国際使節団に参加した鳥井徹光君の帰国報告会と尾形智矩君（常任幹事組織部長）を囲む懇談会、第十一回全国大会派遣代表の決定について等話し合い、新入会員も相当数出席して盛会に終った。

最も美しいこと
最も近代的なこと
最もご便利なこと
ハンシンは
みなさまのデパートです
大阪梅田・水曜定休
阪神
電大阪361-1201（代）

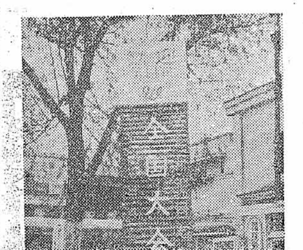
大会点描

◎猪苗代の駅を降りた代表の諸兄姉をまず迎えたのは、駅前広場にテント鎮座していた歓迎塔であろう。あの歓迎塔は福島県支部連合会が用意をしたものであるが、その費用はしめて五千円也である。バカに安いというなかれ。会員が毎日汗を流して作成した友愛の結晶である。普通に作ったのでは最低に見積っても三万円は掛かる代物を僅か五千円で作り上げたあたりは友愛ならではのことというべきであろう。福島県連の皆さんどうもありがとう。

◎今回の全国大会には二組みの新婚夫婦が出席していたことを知る代表者は少かったことと思う。それは山口支部の竹重勝夫君と宮田靖新事務局長ご夫妻である。新婚時代の思い出を磐梯友愛山荘にも残そうとの気持からか、あるいは一時も離れることがしのびなかったのか知る由もないが、何はともあれ家族ぐるみの友愛運動がここにも生まれたことになろう。それにしても竹重君ご夫妻のお互いをいたわり合う姿は、これぞ友愛夫婦というにふさわしいほほえましい光景であったが、これに反し宮田事務局長ご夫妻は、大会期間中話をしたのは わずかに四回、それもほんの立話程度であったとは 同情の念を禁じ得ない。

◎参加者の諸兄姉に初めのうちはあまり知られなかったが、今度の大会で初めて大会速報が発行された。あれだけ多忙を極めた全国大会の最中よく発行できたものと思われるが、これは宮田新事務局長、高野常任幹事、吾妻山荘管理主事三人による労作である。三人がそれぞれの部門を担当して昼間注意をしており、それを夜中の十二時頃から原稿も書かずにブッツケ本番で原紙に切り翌朝までに刷り上げる芸当を演じたのである。刷り上がりの時間は朝五時頃であった由だが、とすると五時半には起床していた彼等、いったいいつ寝ていたのだろう。昼間は確かに起きていた。

◎食事時の食堂は大混雑を呈したが、それでも誰も不平をいう者もなくスムーズに食事ができたのには山荘スタッフの大変な苦労があった。大人数であったため食事は友愛山荘と磐梯ヒュッテの両方の食堂を利用したが、これは全部友愛山荘で料理をしてからふたつに分けてヒュッテまで運んだものである。ところが、料理はあちらであまり、こちらで足りなくなりでスタッフは同じ料理を二度も三度も運んだり持ち帰ったり大騒ぎをしていたのである。食事がおいしかったのはこの苦労の味も加わっていた からでは ないでしょうか。



【写真は駅前の歓迎塔】

洋紙一般・白板紙
段ボール原紙
本州製紙

BS
ブリヂストンタイヤ株式会社
本社　東京都中央区京橋1の1
支店
◎札　幌◎仙　台◎東　京◎名古屋
◎大　阪◎高　松◎広　島◎久留米
工場
◎久留米◎横　浜◎東　京◎那　須

生れたときから
新光の砂糖
SSK
新光製糖

ご贈答に9都に共通
大丸の商品券
＊東京・大阪・京都・神戸の各店をはじめ 博多・下関鳥取・高知・別子の各大丸及び小田急百貨店にも共通
東京駅
大丸
八重洲口

NS
名古屋精糖
取締役社長　横井廣太郎
本社 名古屋　本部 東京　工場 神戸・東京・名古屋

地方だより

神奈川県連結成する

全国大会間近に念願達成

【横浜発】川崎支部の結成により機運が盛り上っていた神奈川県支部連合会の結成大会は、横浜支部川崎支部をはじめ県下各地区の代表六十名が出席して四月二十六日午後一時より横浜市の神奈川県青少年センターで開かれた。

当日は本部より奥田吉郎幹事長高野政利総務部長、尾形智矩組織部長、中川治男文化部長、宮田靖編集局長が出席した。

大会は横浜支部の井上耕一君の司会によってはじめられ大久保照夫大会準備事務局長の経過報告、つづいて本部代表奥田幹事長の挨拶、来賓として自由民主党総務会長藤山愛一郎氏、神奈川県知事内山岩太郎氏、川崎市長金刺不二太郎、鎌倉市長山本正一氏の祝辞があり、議長に川崎支部の望月守君を選び議事に入った。

神奈川県支部連合会規約、運動方針、組織活動計画、役員等が審議され、活発な意見が展開されたが大会準備委員会の原案通り可決された。

最後に横浜支部の角田恭子さんが声高らかに大会宣言を朗読し午後三時閉会した。

なお午後三時半より一時間にわたり奥田幹事長の「世界の青年」と題して記念講演をおこない出席者に感銘をあたえた。

神奈川県連役員

会長　斎藤文夫（川崎支部）

副会長（事務局長兼任）大久保照夫（横浜支部）

事務局長次　望月守（川崎支部）

徳島学生部も結成

支部長に津田君を選ぶ

【徳島発】徳島学生部の結成は張西五六徳島県連会長をはじめ、昨年島根県で開かれた第二回友愛学生会議に出席した徳島大学の津田弘視君等が中心となり準備を進めていたが、四月十五日午後一時より徳島県農業会館で開かれ五十名の会員が出席した。

本部から尾形智矩常任幹事（組織部長）添野元晴関東学生部委員長、浜克彦関東学生部幹事が出席した。

大会は津田準備委員長の経過報告を承認したのち、徳島大学支部規約、活動要綱、組織方針、役員等の審議に入った。さすがは学生らしく活発にしかも理論的な意見が展開され提案された諸議題を決定した。

つづいて本部代表並びに来賓の祝辞がおこなわれ、尾形組織部長添野関東学生部委員長、衆議院議員三木武夫氏代理大久保栄吉氏、徳島県教育委員会社会教育主事松島敏雄氏、国民協会徳島県支部矢野茂文氏からそれぞれ徳島大学支部の前途を祝すとともに今後の積極的な活動を期待するとの挨拶がおこなわれた。

午後四時全予定を終了し閉会した。

＜徳島大学支部役員＞

支部長　津田弘視

副支部長　中村博彦

〃　石川好夫

事務局長　鎌田毅

事務局　徳島市通町、内町ビル

三木武夫事務所内

TEL（2）〇三一二

農業改善の研究会

【猪苗代発】福島県連所属の猪苗代支部（支部長＝星健夫君）では去る三月四月にかけて例会および研究会を開催した。

最近大きくとりあげられている農業構造改善問題を勉強するため猪苗代町内千里の農業協同組合長薄康彦氏を講師に招き「猪苗代町と農業構造改善」と題して講演を聴いた。農業構造改善については新聞その他でさわがれているわりには、一般に具体的にはよく知られていない実状なので、講演の内容は基本方針と地域社会における具体的な方法について説明があり有意義であった。その後質疑応答と意見の交換をおこない、参考書の紹介があって盛会のうちに会を閉じた。

続いて第一回全国大会の受け入れ準備について打ち合わせをおこない、星孝雄君の栄転祝いなどあってなごやかに終了した

◇事務局

福島県耶麻郡猪苗代町千代田

星　健夫方

山口県連大会開く

熊野会長が勇退をする

第二回山口県支部連合会定期大会は五月十日午前十時より山口市の中国新聞山口支社三階ホールで開かれ、山口支部、宇部支部、阿東支部、山口大学支部の代表五十名が出席した。

当日は本部から尾形智矩常任幹事（組織部長）が出席した。

大会は山口支部清水孝一君の司会にはじまり、熊野英坤県連会長の挨拶、本部代表尾形常任幹事の挨拶、山口県副知事、県社会教育課長等の祝辞ののち議長に宇部支部小川明湊君を選出した。

つづいて東田教範県連事務局長が〝青年の像〟建設をはじめとする各種事業の経過報告をおこないこれを承認し議事に入る。

昭和三十九年度運動方針、事業計画、組織活動方針、役員等を熱心に審議決定し正午閉会した。

午後は熊野英坤氏の「解放経済下における青年」と題する講演、また尾形常任幹事を囲む懇談会が開かれ午後三時閉会した。

＜山口県連新役員＞

会長　東田教範（宇部）

副会長　竹重睦夫（山口）

〃　藤野愛子（宇部）

事務局長　清水孝一（山口）

事務局　山口市早間田三三

矢野テントKK内

TEL山口②一七四七 四五〇九

関東学生部に英会話クラブ

関東学生部（委員長＝添野元晴君）では、このたび友愛アルビョンクラブを設立し、クラブ員を募集している。これは、英会話の勉強をするサークルで、学生部に限らず広く門戸をあけているので多数の参加を希望している。

ゴルフを楽しもう

友愛ゴルフ同好会を設立し会員を募集している。

❶名称　友愛ゴルフ同好会

❷責任者　川手正一郎

❸主旨　本会々員も社会的に取り引きの関係でゴルフを覚えていた方が良い人が増えている。そこで誰と相手をしてもはづかしくない程度にはゴルフを覚えておきたい。

❹会費　二千円（そのつど必要経費を徴収）

❺申込み　本部事務局まで

新事務局長プロフィール

筋金入りの友愛マン

宮田靖君

宮田靖事務局長のさっそうたる登場で、事務所は若返りはつらつたる気運がみなぎってきた。

北川大物事務局長のあとを継いで意外に早い昇進であり大役であるが、彼の経歴からみると決して不思議ではない。

彼は、昭和三十二年の七月に奥田幹事長、当時の一ノ瀬学生対策部長（中大・NHK勤務）のスカウトによって入会した。

三十一年の四月日本大学に入学、その年の新人弁論大会で他をだんぜん引き離して優勝の栄冠に輝いた。その時の審査委員の一人が奥田君であった。本会に入って学生部で活躍するかたわら、三十三年から三年間夏期に軽井沢の友愛山荘の手伝いをし黙々として便所掃除等にあたってきた。また三十四年五年には手薄な事務局を扶け半専従として働いた。半専従とは聞こえのいい言葉であるが実質は奉仕であって会の仕事に交通費程度で従事する山荘の下働きや、半専従をつとめあげてきた地道な努力が、彼の本来の素質と相まって友愛マンとして筋金をつくってきたといえるであろう。

三十六年の四月には正式に本部に勤務し事務局次長の資格で多忙な当時の渡辺昇事務局長、その後の北川事務局長の片腕とて、年々発展しする本会の主として事務処理にあたってきた。

この間に文部省、新生活運動協会等の補助事業を手がけ、会の新しい事業を拡大してきた。

今度の全国大会においても、実際その成果は常任幹事会において高く評価されている。こうしたまとめ役は、今回が始めてではなく、あの口から先に生まれてきたようなウルサ型の多い全日本学生雄弁連盟の事務局長として、見事に彼らをおさめてきた経験がものを云っている。

彼の雄弁は、体に似合わない迫力のある声とともに定評がある。また討論にかけてもすぐれていて、日本教育テレビ主催の学生問題討論会（三十八年二回）道徳問題座談会（三十九年）に参加している。

三十五年に常任幹事、三十六年に編集局長の要職についた。

三十八年度の第五回政府青年海外派遣では中央推せんとして東南アジア第二班に加わり、マレイシヤ、タイ、ビルマ、カンボジア、ヴエトナム、タイワン、ホンコンを二ヶ月間廻ってきた。一行から深く信頼され、持ち前のまとめ役を果たしてきた。これには船の関係で釜山によったため、日韓問題の本会権威というおまけがついている。

以上のような経歴を買われて満場一致、第十一回全国大会において晴れの事務局長に就任したのである。

彼について語る際に忘れることができないのは、その恋物語りである。本人も決して遠慮せずオノロケを欠かしたことがないし家庭孝行はたいしたものである。なれそめは三十六年友愛移動映画班で札幌に渡った時、札幌大通公園において札幌支部の会員であった玲子さんに一目で恋をしたのである。この恋はそのごの全国大会で顔を会はしたにもかかわらず一口も口を聞けなかったほどであったが吉川御大の協力もあって実を結び、文字通りの友愛結婚であった。

さて、新事務局長の抱負は、細いことにこだわらず大綱をたてて大綱を実践してゆくことにある彼に願うことは、学生時代のスポーツマンに帰り頑健な身体を養うことと、友愛の指導者はとりもなおさず日本の青年運動の指導者であり、世界の青年指導者の仲間入りをすることになるのである。

中央日誌

4/12　台東支部第一回ドライブ・ハイキング（真鶴海岸）

川崎支部研修会（後一時於市労働会館）

実践倫理講演会

13　核禁会議幹部会・常任理事会合同会議（後二時・於主婦会館）

日本青年奉仕隊推進協議会（前十時・於参院会館）

14　世界青少年キャンプ行事打ち合わせ（後二時・於キャンプ組織委事務局）

15　日本青年奉仕隊推進協議会（後二時半・於衆院会館）

友の会和裁の集い（前十時・於会長邸離）

徳島大学支部結成大会（後三時・於徳島農業会館）

世連日青協第二回常任中央委員会（後六時・於参議院別館）

16　総理招待観桜会（前九時半・於新宿御苑）

17　世界青少年キャンプ行事打ち合わせ（後二時・於キャンプ組織委事務局）

19　都連お茶会（前十時・於会長邸はなれ）

第十一回関東学生部総会（後一時・於市ヶ谷会館）

21　国民年金協会理事会（後一時・於衆議院第一会館）

日本青年奉仕隊推進協議会（後三時・於衆院会館）

22　日本青年奉仕隊推進協議会（後一時・於参院会館）

24　中青連委員会（後二時・於日赤東京都支部）

世界青少年キャンプ青少年団体委員会（前十時・於総理府六二〇号室）

日本青年奉仕隊推進協議会（前九時半・於参議院会館）

25　核禁会議全国理事会（後一時・於虎の門共済会館）

友愛婦人友の会足立支部総会（後一時・於そばぎゆう別館）

選挙法改正運動協議会（後一時・於婦選会館）

26　神奈川県連結成大会（後一時・於神奈川県青少年センター）

27　世界青少年キャンプ国内選考打合せ（後二時・於総理府）

世界青少年キャンプ行事打合せ（後三時・於組織委員会）

川崎秀二氏中共訪問壮行会（後六時・於尾崎会館）

28　第十一回全国大会準備委員会（後六時半・於本部）

文京区国旗掲揚推進協議会（十二時半・於区役所別館）

日本青年奉仕隊推進協議会（後一時・於参院会館）

5/2　常任幹事会、大会資格審査委員会、大会運営委員会（於磐梯友愛山荘）

3　第十一回全国幹事会、第十一回全国大会（於磐梯友愛山荘）

4　第十一回全国大会（於磐梯友愛山荘）

5　第十一回全国大会（於磐梯友愛山荘）

生長の家全国青年雄弁大会（後一時半・於台東体育館）

6　友愛婦人友の会和裁のつどい（前十時・於会長邸はなれ）

7　早朝墓参会（前六時半、於谷中墓地）

8　世界青少年キャンプの歌委員会（前十時・於赤坂離宮）

9　日本青年奉仕隊推進協議会、自民党代議士懇談会（後一時・於衆議院議員面会所）

10　山口県連定期大会（前十時・於中国新聞山口支社三階ホール）

関東学生部例会（後一時・於会長邸はなれ）

気品たかい美しさ…
資生堂化粧品
創業1872年
株式会社 資生堂
東京都中央区銀座西7～8
資生堂大船工場　鎌倉市岩瀬字下耕地1-1
資生堂東京工場　東京都墨田区寺島町4-70
資生堂大阪工場　大阪市東淀川区小松北通2-34
資生堂化学研究所　東京都北区神谷町3-13-2

お買物の楽しさを差上げる
商品券
東京・大阪・京都・横浜共通
日本橋 髙島屋
電話(211)4111

あなたのくらしのなかに
■いつでもお出し入れできる
普通預金
皆様の富士銀行

鹿島研究所出版会
人づくり、国づくりにも役立つ友愛思想の名著
クーデンホーフ著作シリーズ
■R・クーデンホーフ・カレルギー伯著　法学博士　鹿島守之助訳
パン・ヨーロッパ —ヨーロッパ連合— ¥380
ヨーロッパ国民 ¥370
実践的理想主義 ¥200
世界平和への正しい道 ¥200
悲惨なきヨーロッパ ¥200
技術による革命 ¥200
ゼントルマン ¥70
ヨーロッパにおける女性の使命 ¥70
ヨーロッパの統合 ¥70
戦争から平和へ —平和のための条件— 深津栄一訳 ¥300
ヨーロッパは統合しなければならない 深津栄一訳 ¥200
■オルガ クーデンホーフ手記　鹿島守之助訳
母の思ひ出 ＜独文和文＞ ¥100
■近刊
クーデンホーフ自叙伝
■河出書房版　法学博士　鹿島守之助訳
人生の戒律
ヨーロッパの三つの魂 ¥430
物質主義の運命 ¥430
学校・図書館の必備図書　図書目録呈
東京・芝田村町五ノ九浜ゴムビル内
鹿島研究所出版会